



名古屋柳城短期大学

# ちやべるにゅーす

第27号 (クリスマス号)

2014年12月17日

クリスマスは、いつも私を遠い2000年前の尊い出来事に想いを馳せ、様々な想像の世界へと誘ってくれる季節です。さて、今回は、スウェーデンのセルマ・ラーゲルレーブをご紹介します、『聖なる夜』に想いを巡らしてみたいと思います。ラーゲルレーブは、1858年にスウェーデンに生まれ、『ニルス不思議な旅』など多数の物語を生み出した、女性初のノーベル文学賞作家です。さて、『聖なる夜』は、彼女にとって、とても大切な宝物のようなお話なのです。それは、大好きだったおばあ様から聞いたお話であり、その後の彼女の作家生活の原点ともなった物語だからです。さあ！どんなお話でしょうか。

あるクリスマス、彼女の家族は教会のミサに出かけ、幼いセルマと年をとったおばあ様は、お留守番をしていたのです。そんなとき、いつものようにおばあ様がお話を語りはじめました。

真っ暗な夜、男の人は、妻が子どもを産み、赤ん坊と母親を温めるために火を熾おこさなくてはなりませんでしたが、人々は皆寝ていて誰からも火種をもらえません。するとほるか遠くに赤い火が見えたので、男は火に向かって急ぎました。そこには、年老いた羊飼いの男が羊の番をしていたのですが、彼の傍には、大きな犬が三匹、羊を守るため見張っていたのです。犬は大きな口をあげ、男に向かって一匹一匹飛び掛かり噛みつきましたが、男は、傷ひとつ負いませんでした。羊飼いは、男を見ると長い棒を投げつけましたが、その棒は、男をよけるようにして飛んでいってしまいました。羊たちは、焚火の周りでびっしり体を寄せ合って眠っています。男は、真ん中の焚火に近づきたくても、近寄れません。それで、男は、羊の体の上を歩いていききましたが、羊は一匹も起きませんでした。男

が、羊飼いにもう一度「火種を！」と頼みましたところ、様子を見ていた羊飼いは、気味悪くなり、「いるだけもっていきな！」と言ったのです。ところが、男は、火種を入れるものを持ち合わせていませんでした。男は、その火種を素手で持って自分のマントに入れました。しかし、手はやけどしないし、マントも焦げなかったんです。羊飼いは、無愛想で意地の悪い人でしたが、不思議に思い男の後をついて行きました。男は、冷たい洞窟に入って行きました。羊飼いが、見てみると、男の妻と赤ん坊は、むき出しの冷たい石に囲まれて横になっていました。羊飼いは、「あれでは赤ん坊は、凍えて死んでしまう！」と憐みの心が起こり、持っていた袋

から羊の毛皮を出し、見知らぬ男に差し出しました。羊飼いは、はじめて優しい気持ちになったのです。そのとたん、羊飼いの目が開けて、今まで見えなかった

ものが見え、聞こえなかったものが聞こえるようになったんです！ 良く見ると、洞窟の周りには、天使たちが楽器を手にし、今夜、「救い主がお生まれなった！」と喜びに溢れ、声高らかに歌っていたのです。

おばあ様はここまで話をし、ほっとして最後にこう言ったのです。「羊飼いが見たものは、私たちも見ることができるんだよ。見る目がありさえすればね。これは、ほんとうのことなんだからね。それを見るには、ランプやロウソクも、太陽や月の光もいらぬ。必要なのは、私たちが、神様の栄光を見ることができ、そんな目をもつことなのだよ」と。2000年前の厳しいユダヤの状況下で、ひっそりと幼子を迎えたマリアとヨセフ、皆様は、どんなことを想像しますか？

## 『聖なる夜』 ～「キリスト伝説」より～ 尾上明子

## 後期の礼拝から

平松 ちづ代（前三好丘聖マーガレット幼稚園園長）

今年三月に附属三好丘聖マーガレット幼稚園を退職しました平松です。

このように、礼拝でお話する機会をいただいたこと感謝します。

皆さん！先週最終回を迎えたNHK朝ドラは「花子とアン」赤毛のアンの翻訳者村岡花子先生のお話でしたね。このドラマを見ていると、柳城学院建学の頃を想わせます。カナダ聖公会の宣教師マーガレット・ヤング先生が、自宅で保母養成を開始したのは明治31年。この頃キリスト教宣教師が日本を訪れ、多くの影響を与えました。特に日本の女性と子どもたちを見て「教育が必要」と、生涯をかけて働いて下さいました。ですから日本の幼児教育は、キリスト教の教えが土台となっています。またその働きを献金という形で支えて下さった母国の人々を思う時、経済大国となった私たちは今、貧しい国の弱い立場の人々に恩返しをしなければなりません。

ドラマの花子は、修和女学校で英語を学んだ事によって人生が大きく変わりました。私も柳城女子短期大学に入学する事によって、人生が変えられた者の一人です。

クリスチャン寮生達の幼児教育にかける使命感に圧倒され、授業開始前の礼拝から「目には見えない大切な世界」と「祈ること」を知りました。卒業後附属瑞穂幼稚園に就職しキリスト教保育に携わったことで、クリスチャンになりました。その後、生涯の仕事として長年キリスト教保育に携わることが出来、心から感謝しています。

このように教育はその人の人生におおきな影響を与えます。

当時の学長坂東喜久先生から教えて頂いたことを記憶の限り思い起こし、三つにまとめまし



た。

「いつも 心を動かして 自然をよく観察する」

自然は神さまからの贈り物であり、子どもたちの友だちです。自然を通して子どもたちに教えることは沢山あります。まず先生が心を動かして自然と親しみなさい。

「日々 いろいろなことや物に興味を持って生活し 保育に生かすよう工夫する」

自分の手で作るものはささやかなものでも愛があります。保育を工夫することを忘れないで！ 先生が手を抜くことを選択しては、良い保育は出来ません。

「自分自身を磨くために 良いものに 沢山ふれる」

良い本を読み、美術観賞をし、美しい音楽を聞いて自分を磨くことを心掛けなさい。

私も、これから出会う子ども達に多くの影響を与える存在となる皆さんに「幼児期は模倣から学びますから、先生の服装、立ち振る舞い、ことば使いすべてが教育です」と伝えます。

柳城学院の建学の精神は「By Love Serve」です。「愛によって互いに仕えなさい」のみ言葉から取られています。が、「互いに」は先生にとっては子どもたちです。子どもたちが「仕える」とは、精一杯元気に成長する姿を見せてくれることです。では先生はどうやって子どもたちに仕えたらよいのでしょうか？キリスト教保育で一番大切な言葉は、「イエスさまは子どもたちを身元に来させ、手をおいて祝福された」です。子どもは自己中心的で、けんかをしたり、いじわるをしたり、先生の困る事ばかりする子どももいます。でも、それも含めてありのままの子を受け入れ、「先生は愛しているよ！」と伝えることが「仕える」ことと思います。

この名古屋柳城短期大学に招かれた皆さんは今、神さまの愛の中にいます。皆さんお一人お一人が神さまの愛の運び手となってくださいとお願ひして、終わります。

## 「子どもの友イエス」(マルコ福音書10:13~16)

志村 真 (中部学院大学短期大学部 宗教主事)

江戸時代後期の僧侶(曹洞宗)に良寛(1758~1831)という方がおられます。現在の新潟県出雲崎町のお生まれです。寺を持つことなく質素な生活を送り、民衆に分かりやすい言葉で教えを説いたと言われています。その反面、当時の仏教のあり方に鋭い問いを發する文章も残しております。そうした点でイエスとの共通点を見出す人は多いようです。



小説家の水上勉(1919~2004)によりますと、江戸時代、越後の貧しい農民の娘たちは、身を売られて村を出て、群馬県の本崎の旅宿で働かされました。多くは過酷な労働のゆえに、短い生涯を閉じざるを得なかったようです。良寛和尚が毬をついて一緒に遊んでいたのは、そうした幸薄い女の子たちでありました。

水上勉はそうした無縁墓地の墓石の一つ一つを訪ねて記録しています。一つ挙げますと、「越後国蒲原郡黒水村 俗名 む羅 十八才」水上は想像をめぐらします。

「『お姉さんはどこへいった。ちかごろは顔を見せなくなったが…どこぞ、<sup>からだ</sup>軀でもわるいのかな』『和尚さま、姉ちゃんは、上州へ行った』

『上州のどこな』『本崎…姉ちゃん…仲間と一しょに行ったよ』『そうか…つれをつくってでかけたのかい』行く先はきかなくてもわかっていだろう。『さあ、それなら一しょにかくれんぼしてあそうほうか、こっちへおいで。みんなの仲間におはいり』』(『良寛を歩く』45ページ)

先ほど読みましたように、イエスになでてもらおうと人々が子どもたちを連れてきたとき、弟子たちはあろうことか、子どもたちの前で叱りつけたと言います。そのときイエスはお怒りになりました。子どもたちが不当な扱いを受けたり、子どもたちを前にして乱暴なことがなさ

れたりしたとき、イエスは怒ります。

イエスは「子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された」と書かれています。イエスは子どもを一人ずつ順番に、時間をかけて抱き上げ、下ろし、頭に手を置いて祝福されたのでしょうか。

実は、イエスの時代、古代のパレスチナの子どもたちは過酷な生活を強いられました。マリーナとロアポーによれば、「幼児死亡率は時に30パーセントに達した。出生児のさらに30パーセントは6歳までに死亡し、60パーセントは16歳までに死去した」と言います。(『共観福音書の社会科学的注解』137ページ)

こうした短命は、社会状況によってさらに厳しいものとなりました。発掘されたイエス時代にさかのぼる人骨の分析によりますと、暴力による死亡や「異常死」によるものが多く含まれているとのこと。たとえば、3~4才の子どもが弓矢で殺され、高年の女性がこん棒で殴られ、青年男女が軀を焼かれて殺されています。また、餓死した子ども、分娩異常で亡くなった母子の結合遺体もあります。「サウルの娘サロメ。出産時に亡くなる。平安あれ、娘よ！」これはこの母子の骨箱に記された銘文です。

この人たちに一体何があったのでしょうか。戦争です。

イエスが触れ合われたのは、こうした人々、特に女性や子どもたちでありました。戦乱と貧困がなせる短命を生きざるを得なかった子どもたちを、イエスは一人一人抱き上げました。この動詞「抱き上げる」には「腕の中に包む」という意味があります。小さな子どもを腕の中に包み込めば、抱く大人と抱かれる子どもは重心軸を共有して一体になります。回転してもよろけません。そのように、イエスは子どもとご自分をまさに一体化なさいました。実に、イエスは子どもの友でした。

イエスと良寛の姿は重なります。このお二人の子どもに向き合うお姿に思いを致したいと願うものです。

## 後期の礼拝から

2014年11月1日（土）には、柳城学院の創立116周年記念礼拝が行われました。

第1部では、田中誠チャプレン司式の下、創立記念礼拝が執り行われました。渋谷一郎理事長、新海英行学長の式辞の後、永年勤続者（新海英行学長（勤続10年）、平松ちづ代評議員（勤続10年））の表彰が行われました。第1部の最後の部分では、2年次前期の成績上位者に贈られる特別給付奨学金の表彰が行われ、1位から8位までの計9名の学生が一人ずつ学長より表彰状と奨学金を受け取りました。



創立記念礼拝第1部の様子

第2部では、名古屋柳城短期大学の元チャプレンである司祭・相澤晃先生より「神様の恵みに生かされたチャプレン時代」と題する講話が行われました。相澤先生は1968年から20年にわたり、柳城でチャプレンとしてお働きになりました。先生がチャプレンとして着任されていた時期、学生の中から多くの受洗者が誕生したこと、また、その当時、柳城は学生の定員を増員するということを2回も経験し、西原新一学長先生のもとで、文部省や厚生省に通ったりしながら、さまざまな困難に直面しながらも、無事に乗り越えて実現することができたこと、また、その定員増の間に、豊田市から話を受けて附属豊田幼稚園が誕生したことなどをお話しされ、そのようなさまざまな出来事の中に、神様の恵みがあることを感じられることの喜びと大切さ

を語っていただきました。会場は、柳城への愛とユーモアにあふれた相澤先生のおかげで、始終なごやかな雰囲気でも包まれていました。



相澤晃先生のお話

## 墓地礼拝

同日の午後からは、名古屋市八事霊園にある日本聖公会中部教区の共同墓地に向かい、ヤング先生をはじめとする柳城学院の関係者の前で、お祈りを捧げ、併せて献花を行いました。



ヤング先生のお墓の前で



## キリスト教センターブログ 公開のお知らせ

皆様との交流を深めさせていただきたく、当センターの情報発信を2014年10月よりウェブ上で開始しました。

私たちの日常の活動を普段着で語ることで、イエス・キリストの御心を多くの方にお伝えできるようになれば幸いです。閲覧のほう、よろしく申し上げます。(加藤)

検索サイトで「柳城 センター」と入力するか、短大 HP のトップ画面からお入りください。

初期画面では、記事が掲載日時順に並んでいますので、カテゴリーを選択して頂くと読みやすいかと思います。

更新があったカテゴリーには new の印が付きます。

当センターの概要が分かります。

当センターが掲げる年間聖句を解説します。

毎週水曜日の大学礼拝の様子がご覧いただけます。

本学院の創設者マーガレット・ヤングのご紹介です。

本学院の創立記念礼拝 (11/1) の様子です。

短大のクリスマス礼拝 (12/8 頃) の様子です。

皆さんにお届けしているクリスマスカードの作成秘話などを掲載しています。

短大の学生や教職員等へ毎年送るプレゼントをご紹介します。

礼拝形式で行なわれる卒業式・入学式の様子です。

当センターの機関誌全文を掲載しています。

当センターのボランティア活動の一つである東日本大震災復興支援活動の報告書全文を掲載しています。学生らの熱い思いを是非ご一読ください。

## 新任教職員紹介



### 「共に育つ」

山本 聡子

こんにちは。後期より柳城でお世話になっております。毎日皆さんと学ぶことができ、忙しいながらも楽しい毎日です。

さて、皆さんはいつ、どのようにして子どもに関わる職業に就きたいと思うようになったのでしょうか。私は保育短大を卒業後、私立幼稚園で働いていましたが、実は保育の道を志したのは、二十歳過ぎでした。

幼い頃から大好きな私は、文学部で国語学を学んでいましたが、保育短大生と合同の和太鼓サークルに所属しており、そのご縁で保育園や幼稚園に招かれることがよくありました。そしてそこで子どもたちのまっすぐな自己表現に触れ、また、四季を大切に心こまやかに子どもと暮らす先生方の明るい笑顔に出会い、「こんな生き方もあるんだ！」と保育の道へと進むことを決めたのです。

幼稚園教諭になってからは、可愛い子どもたちと宝物のような日々を過ごすことができました。子どもたちの伸びる力は、見ていて羨ましいほどでした。

私が幼稚園で1年目に担任した子どもたちが、ちょうど今大学生になっています。礼拝の時、学生の皆さんの背中を見ながら、小さかった子どもたちもあつという間にこんなに大きくなる、その間に私もどれだけ成長できたのだろう…としみじみ振り返ります。子どもたちほどではなくても、私もここで成長していけたらと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。



### 「初めまして」

神戸 厚

初めまして、総務課で、務めさせて頂くことになりました、神戸 厚(かんべ あつし)と申します。

以前勤めていた職種は、インフラ関連のSEです。SEの仕事として、サーバやNet Workの基盤構築を実施していました。実は、SE時代、名古屋柳城短期大学様に、サーバの構築でお伺いした事があります。何かのご縁が在ったのでしょうか。

話は、変わり私の趣味の中に映画鑑賞があります。特に好きな映画をご紹介します。「ブラザー・サン シスター・ムーン」という映画になります。映画の内容は、アッシジのフランチェスコの半生を描いた映画です。私に、「人間にとって本当に大切なもの」を教えていただいた、とても大切な映画です。話の内容が、重く成りがちですが、とても爽やかな作品に仕上がっています。この映画と出会ったのも、キリスト教の学校にお世話になったのも之も何かのご縁でしょうか。

色々のご縁が在り今回名古屋柳城短期大学様にお世話になります。分からないことが多くご迷惑をお掛けいたしますが、頑張って務めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

2014年12月17日発行 第27号  
発行所 名古屋柳城短期大学  
名古屋市昭和区明月町2-54  
編集兼  
発行者 キリスト教センター  
印刷所 株式会社 マルワ

## 今年のクリスマス献金先

被災者支援センターしんち 日本聖公会 アジア保健研修財団 笹島キリスト教連絡会 岐阜アソシア キリスト教保育連盟 日本聖公会保育連盟 聖ヨハネ学園 エリザベス・サンダース・ホーム 博愛社 滝乃川学園 ひだまりの里 中部教区センター 国際こども学校